旭区社協インフォメーション

報告 旭区内企業に向けた福祉教育の実践

私たちの地域にはさまざまな人が暮らしています。誰もが安心して自分らしく暮らし、共に支えられ生きていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けて今回は、旭区内企業で行った実践事例（第一生命保険株式会社　横浜総合支社　二俣川営業オフィス オフィス長 萩原有美子）を紹介します。

グループディスカッションの様子。オンラインでの参加者もいました。

経緯　「生命保険の販売だけでなく、地域の中で人と人とのつながりの大切さを伝えたい」「これからは、地域とともに共存していく企業じゃないといけない。一緒に地域のしあわせづくりをしていきたい」等、第一生命保険株式会社 二俣川営業オフィスの社員の方より思いのこもったお話をいただき、本会では地域の方々の協力のもと実施している無料頒布会や区社協事業を通じて目指す「地域共生社会の実現」について、社員の方に向けた研修会を企画・実施しました。熱心に耳を傾けている社員の方が多く、終了後のアンケートからも意識の高さが伺えました。

社員としてのみならず、地域住民として「地域の中で互いに支えられていること」「幸せを感じて生きていくこと」について、それぞれが気づき学び、考える機会となりました。

テーマ「地域共生社会の実現を共に目指すパートナーとして」

第1回　令和3年7月20日
「地域共生社会の実現とは、食料品・日用品等頒布会を通じて」
・旭区の社会的背景（孤立、困窮、コロナ、8050、地域共生社会等）について
・万騎が原地区、二俣川地区無料頒布会の活動から見えてきたこと

第2回　令和3年8月21日
「区社協事業（あんしんセンター）の事例から見える地域共生社会」
・権利擁護事業（あんしんセンター）について
・地域に住む個人を支え、支えられている事例から

第3回　令和3年12月1日
「地域社会の実現に向けて、自分たちのできることを考える」（グループディスカッション）
☆仕事（営業）の中で気づいたこと、意識したこと
☆住民として生活の中で気づいたこと、地域のつながりや近隣との交流について

まとめ「どんな地域で暮らしたいか、地域共生社会の実現に向けて」

アンケートから

- 相談相手もなく困っているひとり親家庭があること、また自分は支える側と思っていても支えられたり、お互い様だと感じました。
- 地域共生社会とはすべての人が協力しあってお互い様の心で接するという言葉が心に残りました。
- あんしんセンターの実際の事例を通じて考えることで、より身近なこととして考えることができました。
- 旭区の現状と地域共生社会を目指す姿がよく理解できました。
- 保険のことのみでなく雑談の中から生活に困っていることがないか聞き出す努力をするようになりました。
- 研修を通じて、地域の掲示板など気をつけて見るようになりました。お年寄りに声をかけるようになりました。

※旭区社協では、地域共生社会の実現に向けて区内企業の方々からもご相談を受けております。
企業の地域貢献活動や社員のボランティア活動の推進、寄付のご相談などお気軽にお問合せください。

善意銀行に寄付いただいた方々　〈順不同・敬称略〉

令和3年10月1日～12月1日

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

（金品寄付）荻窪 邦昭／笹野台地区社会福祉協議会
都岡町内会チャリティーもちつき大会／伊志嶺 朝之
旭区民生委員児童委員協議会／伊藤 志壽江／匿名3件

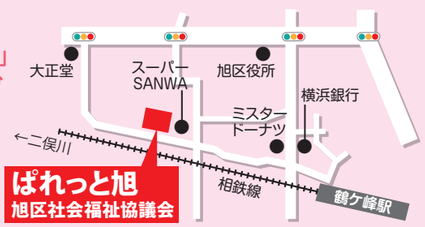
（物品寄付）神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部

善意銀行

善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、必要なところ、または希望された区内福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆さまの善意を広げていく事業のことです。

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会
〒241-0022 横浜市旭区鶴ケ峰1-6-35
TEL：045-392-1123　FAX：045-392-0222
http://www.palletasahi.jp/　旭区社協

●アクセス●
相鉄線「鶴ケ峰駅」北口より徒歩8分



令和4年3月1日発行

旭区社協だより あさひ いきいき宣言

No. 109

共に支えられ 生きていく

この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています。

http://www.palletasahi.jp/　旭区社協

誰もが参加できる

小さなエリアの"素敵"な居場所

旭区は坂が多く、年齢とともに、“集う”ことが難しくなる方が増えてきています。
また、コロナ禍もあり、人と人が出会うことが難しくなったことで
心身に影響を及ぼす方々も増えています。
今回は、小さなエリアで取り組まれている2つの居場所についてご紹介します。

地域共生社会を目指して

共に支えられ生きていく

横浜市旭区社会福祉協議会

地域共生社会の実現に向けて

詳しくは中面へ

旭区社協のTwitterはじめました！（ツイッター）

旭区社協では10月1日よりTwitterを開始しました。福祉に関する情報や各職員が呟いていますので、ぜひフォローしてください！

https://twitter.com/asasha1123

「いいね！」もお願いします。

アカウント名は
横浜市旭区
社会福祉協議会

居場所が担う“街づくり”～地域共生社会の実現に向けて～

居場所には“交流”だけでなく、安否確認や見守り、生きがいづくり、社会参加の場といった様々な役割があります。
今回ご紹介する2つの身近な居場所は、小さなエリアの中でのお互いさまの関係の中で、それらの役割を具体化しています。

市沢下町「憩いのサロン にんじん」

活動日　毎月第二火曜日
10:00～12:00

場所　さくら農園野菜直売所
駐車場

市沢町下町内会は、町内会のエリアが広く、高低差があるため、特に高齢の方はなかなか一か所に集まることができません。そこで、野菜直売所の一角を使い、始まった身近な地域の居場所が**「憩いのサロン にんじん」**です。

マスターの池田さん(市沢町下町内会長)とボランティアの堀江さん

にんじんというサロンの名前は、人と人「人(にん)」「人(じん)」が集まりふれあうということから名づけられました。野菜直売所の駐車場の空きスペースに小さなテントを張り、マスターの淹れるコーヒーを飲みながらお話を楽しみます。すぐ隣にある野菜直売所では新鮮な野菜が販売され、子どもを連れた若い世代から高齢者まで、野菜を買いに来る人でにぎやかです。

マスターの池田さん（町内会長）は「外でテントを張って開催することで3密を避けることができている。サロンに訪れた人と野菜を買いに来た人で「何年ぶりにあったのかしら」と話をする人もいた。野菜を買いに来るついでに、サロンに寄ってつながりができたらと思っている。」と話をしてくれました。サロンでは、「座っていってよ～」「こないだ杖を作ってもらったのよ」と、サロンに集まる人と人が気軽につながれる場になっていました。

市沢町下町内会では、にんじんだけでなく、身近な地域の居場所づくりを進めていきます。

マスターの淹れてくれるコーヒーは本格派の味

堀江さん手作りの「のれん」来る人がかわいいねと言って入ってきます

左近山小高団地自治会「オープンカフェ」

コーヒーを飲みながら楽しくおしゃべり

活動日　毎月第二・四土曜日
13:00～16:30

場所　左近山第3集会所

左近山小高団地自治会では、福祉委員会の皆さんが中心となり、**「オープンカフェ」**を開いています。最近は、福祉委員会の皆さんだけでなく、自治会代議員の有志もスタッフとして加わっています。参加者の皆さんは、コーヒーを飲みながらおしゃべりをしたり、地域ケアプラザ職員の協力を得て認知症予防のための脳トレや健康体操等をして楽しい時間を過ごしています。

約20年前から始まったこの活動は、誰でも参加OK。参加者の中には散歩中にチラシを見つけてふらっと立ち寄られた若い世代の方も。福祉委員会の平藤さんは、「誰か知り合いがいれば参加しやすくなるけれど、誰でも参加できるので、皆さんで誘い合ってきてくれたらうれしいです」と話します。

また、参加者の90代の女性は「オープンカフェの参加者をバスの中で見かけたけれど、降りるはずのバス停で降りそこねていたから声かけしたこともあるのよ」と話してくださいました。

参加者同士が自然と顔なじみになり、見守り合う関係性が広がっています。

ケアプラザ職員による認知症予防の体操

取材後の感想

小さなエリアの中に居場所があることで、誰もが参加しやすくなり、顔の見える関係が自然に生まれ、開催日以外のつながり作りにも広がっています。また、大人数ではないことで、コロナ対策も行えています。旭区の各地で小さなエリアでの居場所が増えていくことで、誰もが住みやすい“街づくり”につながっていくのではないでしょうか。